

表17：平成24年12月に実施された「たけのこムーブメント教室」のプログラム（ドラえもんグループ）

たけのこムーブメント教室 日案 ドラえもんグループ			実施日	平成 24 年 12 月 7 日	
ねらい	④ファンタジックな雰囲気の中で、創造性を育てる ④知覚連合能力を育てる		場所	きらら館	指導者 清水台保育園 高松 佑季
時間	活動内容・方法		配慮すべき点		支援のポイント 準備
1:15	・登園/受付 ・フリーM	・シールを貼り、名札を付ける ・トランポリン、サーキット、バルーン、キャスト...	・一人ひとりを笑顔でむかえ、子どもの姿、状況を把握する。 ・動きを応援する。挑戦できる環境を工夫し、一人ひとりに必要な支援をしながら動きを引き出していく。		・自発性を育てる ・動きの基本能力を育てる
2:00	・個人発表 ・水分補給 ・お集まり	・トランポリン ・プログラム説明	・水分補給をして、次の活動への準備をする。 ・「クリスマス」からイメージできることを子どもたちから引き出していく。		・動的バランスを育てる ・情緒の安定を図る ・創造性を育てる
2:20	・集団M 「サンタさんに会いに行こう！」	・音に合わせて歩く、走る、止まる etc... ・形板で自由に遊ぶ ・みんなで飛ばす ・持って歩く ・形板に座る ・指示した部位を乗せる etc...	・音楽に合わせて、親子で楽しく体を動かしながら、雰囲気を盛り上げる。 ・どんな動きが出来るか、子どもたちの様子を見て、面白い動きやアイデアを取り上げて広げていく。 ・わかりやすい言葉がけに留意する。		・創造性を育てる ・聴覚連合能力を育てる ・空間の意識を育てる ・自発性を育てる ・手の操作性を育てる ・身体意識を育てる ・身体部位の確認
	「雪の国」に行ってみよう！	・みんなで道を作って渡る	・協力して道が作れるように、言葉がけをしたり、手助けとなる援助をする。		・仲間意識を育てる ・空間の意識を育てる
	「雪の国」に着いたよ！	・キャストに乗って移動する ・いろんな空間をくぐる	・スピード感が味わえるようにしたり、自由に楽しむ中で空間に変化をつけ、バランスをとりながら移動が楽しめるようにする。		・バランス能力を育てる ・スピード感を味わう ・時間空間の意識 ・知覚を育てる ・目と足の協応性
	サンタさんの足跡があるよ	・サンタさんの足跡をたどってみる	・サンタの足跡をイメージしながら足の動きを考え、出来るよう言葉がけを工夫する。		・手の操作性を育てる ・ファンタジックな雰囲気を楽しむ ・リズムを楽しむ ・創造性を養う ・社会性を育てる
	「サンタの国」に着いた～ サンタさん登場	・みんなでダンス（フープを使って）	・ブラックライトをおく位置を考え、みんなで光るフープを持ってダンスをしながら、ファンタジックな雰囲気の中で、リズム感を高めていけるようにする。		・ブラックライトといういつもと違う環境の中で、ファンタジックな雰囲気を作る。
	雪が降ってきたよ！	・紙吹雪 ・パラシュート	・楽しかったこと、新しく発見したことを話し合い、次回の教室に繋げていく。		・記憶の再現
3:20	・お集まり ・ミーティング 解散	・楽しかったことを話し合う			パン 飲み物

《保護者のコメント》

- ・一年に一度のファンタジックな紙吹雪の舞は、本当に美しくて感動した。
- ・どんな子どもでも、どこか一つは入れる活動があるというのは、とても大切なことなのだと実感した。
- ・形板を飛ばすのが上手だったので驚いた。
- ・ブラックライトの足跡をととても慎重に歩く姿を見て成長したと感じた。
- ・ブラックライトの中で蛍光のフープをくるくる回すのがとても上手だった。また、ブラックライトを置く位置で光り方が違うことに感動した。
- ・17ヶ園のスタッフが集まってものすごくダイナミックな環境を作ってくださり、どこにもない、また、どこでもできない活動を経験できてありがたいと思う。

プログラム内容と保護者のコメントあわせて分析してみると、それぞれのグループにおいていくつかの特徴をあげることができる。

先に述べたとおり、アンパンマングループは、運動面で未発達な子どものグループである。このグループに参加しているのは、脳性まひによる肢体不自由を有する子どもやダウン症の子ども（未歩行）である。参加者のほとんどが早期に障害の診断を受けており教室に参加する。しかし、肢体不自由が重度であるため、体調を整え健康を維持するだけでも難しく、外出することそのものに困難を抱えている場合が多い。また、乳児期から訓練中心の生活を送っており、子どもにとって最も自然な遊

びの経験がほとんどなく、ましてや集団での楽しい活動、子どもはもとより保護者自身が楽しいと感じられる活動の経験が乏しいという背景を持っている。保護者のコメントにも、声がよく出ていた、色々な表情が見られた、笑顔が見られた、表所が豊かになった、〇〇はできないと思ったができたので驚いたなど、子どもと一緒に多くの人が関わる環境の中で得ることのできる喜びが率直に語られている。さらに、〇〇の感触を楽しんでいたなど、様々な感覚を働かせてそれを運動と結びつけていく段階にある子どもの発達のポイントに気づくことができていたのも特徴である。

写真：アンパンマングループの様子



一方、ドラエモングループは、言語・社会性面で未発達な子どもたちである。すべての子どもが障害の診断を受けているわけではなく、診断を受けていてもごく最近という場合が多い。また、子どもの実態は、自閉症やADHDなど発達障害やその疑いのある子どもである。集団の場面で我が子の「困った行動」に目を向けられる場合が多い保護者にとって、子どもにとってかけがえのない財産である身体を使い、動くことを通して発達の基盤となる様々な能力を育てることができることに気づくことは重要なことである。保護者からは当初「友達のやっているのを見て〇〇できた」というコメントが出されている。そして、回を重ねると共に（9月頃から）、活動そのものに対する我が子の様子、例えば「〇〇を使っ

て〇〇のように楽しんでいた」「このような遊びができるとは思わなかった」に目が向けられるようになり、その成長に喜びを感じていることがわかる。

さらに、両グループに共通してみられる保護者のコメントに「子どもがとても楽しんでいたので家庭でもやってみたい」というものである。我が子と楽しく遊ぶことのできる方法を具体的に保護者に提示できることは、子どもと保護者の心の安定につながる家族支援の大切な側面であると考えられる。また、遊びを原点とする発達の視点を有するムーブメント教育による支援は、保育士にとって最も得意な分野を活かすことのできる方法論であるといえよう。

写真：ドラエモングループの様子



まとめ

本研究の結果から、障害のある子どもの安全・安心を生きやすさとらえることの意義、また、彼らの生きやすさを支える子ども中心の支援のあり方、また、保育園や保育士が支援を展開する中核として、十分にその役割を果たせることが示唆された。

本研究では、障害のある子どもの乳幼児期における育ちの困難性を明らかにするために、先行研究を紹介するとともに、Web検索による発達障害児ならびにその疑いのある子どもの怪我や事故などに関するエピソード分析を行った。

さらに、子どもの安心・安全な保育を目指して、その生きやすさを育むためのムーブメント教育による保育を展開している保育所を研究フィールドとして、保育環境や保育者の関わりなどについて分析した。加えて、障害乳幼児と保護者のための「たけのこムーブメント教室」での実践を通して、障害のある子どもと保護者の心を安定させるムーブメント教育による支援プログラム、ならびに支援ネットワークの実際を提示した。以上の研究を通して、障害のある子どもや保護者の視点に寄り添い、保育士が担う障害のある子どもの生きやすさを支える支援が明らかになったと考える。

【参考・引用文献】

小林芳文・飯村敦子（2007）：特別支援学校等における災害時の避難、日本生活支援工学会誌、7(2)、2－11。
社会福祉法人日本保育協会（2009）：遅れのある子どもの支援に関する事例調査報告書。

本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子他（2003）：保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究、発達障害研究、25(1)、50－61。

厚生労働省（2008）：軽度発達障害児に対する気づきと支援のマニュアル、第6章症例集。

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken07/h7_06a.html

久保山茂樹・齋藤由美子・西牧謙吾他（2009）：「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査、一幼稚園・保育所への機関支援で踏まえるべき視点の提言一、国立特別支援教育総合研究所研究紀要、36、55－76。

尾崎啓子・吉川はる奈（2009）：私立幼稚園における「気になる子ども」の保育の困難さに関する調査研究—自由記述の分析を中心として—、埼玉大学紀要、58(2)、197－204。

高橋千枝（2011）：幼稚園・保育所における発達障害への気づきと連携、母子保健情報、第63号、29－33。

郷間英世・郷間安美子・川越奈津子（2007）：保育園に在籍している診断のついている障害児および診断がついていないが保育上困難を有する「気になる子ども」についての調査研究、京都国際社会福祉センター紀要、23、19－29。

飯村敦子・小林芳文・竹内麗子・吉村喜久子（2011）：障害乳幼児と家族への支援に活かすムーブメント教育の実践分析に関する研究、社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所、保育科学研究、第2巻、116－124。

長谷川かおり・丸尾晶子・木村公美他（2011）：特別な配慮を必要とする幼児の教育的支援（その1）、奈良教育大学特別支援教育センター研究紀要、第20巻、259－266。

池田友美・郷間英世・川崎友絵他（2007）：保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究、小児保健研究、66(6)、815－820。

賀門康博（2011）：「気になる子」は「気にして欲しい」(2)—入園初期における支援計画および支援体制づくりの有効性に関する一考察—、郡山女子大学紀要、第47巻、97－109。

小林芳文（2001）：LD児・ADHD児が蘇る身体運動、大修館書店。